

「ことば」について考える

和田節子

日常生活の中で、あたり前に運用されている「社会の決まりごと」を暗黙のうちに了解し、日々を過ごしております。しかし、解っていて当然という事が案外うっかりして失敗する事があります。

そこで、「ことば」について考えてみたいと思います。  
「きれいなことば ころの通った

Communication」とはコミュニケーションの手段として、ことばは最も高度に発達したシンボルであり、多くの内容を他に伝える事ができるものです。

しかし、発生する事は、ことばづかいによって相手に受け入れられたり、拒否されたりする。したがって、よいコミュニケーションを保つためには、ことばの用い方つまり、ことばづかいが重要な要素となるので、相手の理解を深めるには、次の点に注意しなければならない。

1. 意図している内容の主語と述語を明確にし、順序よく系統的に述べる。
2. 相手にわかることばや内容を正確に選ぶ。
3. アクセントや語調、態度に注意する。
4. 相手にわかる発音をする。
5. 相手が聞きやすい声の大きさと高さにする。
6. 敬語や丁寧語を正しく使う。
7. よい聞き手である。
8. 相手の話すことにすぎ結論を出したり、価値判断をすることばを返さない。
9. 相手に応じて内容に適したもの（文字や図表などを活用）を用いると効果的である。

(聖徳学園女子短期大学講師)



地域の各機関との連携が大切だと思っております。心強く感じ、これからの活動に生かしていきたいと思っております。



ケアに思う

黒田房子

ケアの要請を受け、病院に入院中の利用会員さんの部屋に入りました。以前、ご主人を少しお世話させていただいたことがありましたので、この奥様とは初対面ではなかったのですが、少し不安な気持ちでした。

でも、病室には以前お世話したご主人が丁度おいでになり、私の顔を覚えて、ほほ笑んで下さいましたので、ホッとしました。ご主人は、不自由だった言葉も少しずつ出来るようになっておられ、病院での言語訓練にお供した時のことを思うと、感無量でした。

奥様の方は、お世話をしますと、「汚いことさせてごめんなさい」「側にいて下さるだけで本当に心強いです」「ありがとう」等、本当に嬉しそうにおっしゃいます。そんなふうに使われますと、人の情けとして益々優しくしてあげたい。出来るだけ明るい顔で接しよう。でも、優しさだけでは良いワーカーとは言えないのではないかと自問自答しながらのケアでした。

「まごころ」のモットーを大切に、今後も出来る限りケアをさせていただくのが自分の健康にもつながるのでは……と、少しの経験を通して考えています。



支援システム事務局の依頼を受け実務者会議において事例発表の機会をいただきました。その上、事例検討もしていただき適確なアドバイスを受けることが出来ました。在宅福祉には、

「宮市在宅療養支援システム」  
「生大務労生白△協議会」にて  
「まごころ」  
「山田晶子さん」  
「浅菜克子さん」

山田晶子さん、浅菜克子さん  
日本ケアシステム協会の  
「まごころ」  
「まごころ」  
「まごころ」  
「まごころ」

この度、日本ケアシステム協会のインストラクター養成講座の全課程を終了されました山田晶子さんと浅菜克子さんは「まごころ」の活躍を期待致しております。

宇宙塵

「サービスの質」

伊藤敬三

再放送だったかも知れませんが、中国の未曾有の大好景気について特別番組を見て、いろいろな思いが頭の中を通り過ぎました。天安門での武力弾圧、ボートピープルの命を賭けた脱出、対策の定かでない日本経済の停滞、車や電化製品については、有り余って売れないので、土地所有権さえ無い、広大な領土と国民を擁する中国とは異質の経済で、比較にはならないでしょう。いずれにせよ、指導者が国民の生活の向上が必要であることに気付き、投資先を求めていた国が存り、この好景気に到り、ご同慶に絶えません。国家を約半世紀にわたり、眠りに到らしめた、支配者間の闘争や、官僚制度の温存に寄与しなければ良いのですが。

此処で視点を換え、治安大国である日本はこれ以上進歩することは無いでしょうか。楽しくなければ人生でないと言う西欧、安寧を最も尊しとする日本では、同じには論ぜられないでしょうが、異質な者、劣者は人ではないと言う考え方を換えれば、亦より高度の社会を目ざせば、まだ経済発展の道が望めまじょう。高齢化社会の到来により、一般庶民は老後に不安を感じています。

当会の活動は時代の最先端を行っています。立場を換え、自分が面倒をみてもらうなら、良い配偶者にしてもらうのが一番でしょう。つまり、価値感を同じくし、尊敬し、愛してくださる方をお願いしたいものです。お世話の質の向上は此処に原点が存在すると思います。(聖心堂医院院長)

新年にあたり会員さんに今の気持ちを語っていただきました。

同じ気持ち、目標を持った人々と出会えたことはとても良かったです。1寮へのボランティア活動に参加して、入所者の方々と触れ合う機会に恵まれたことは、自分のこれからの人生に必ずプラスになると思います。又、バザーの作品作りに取り組み、色々楽しみも受けることが出来ました。これからも一歩一歩進んでいきたいと思っています。(小島はぎ)

ケアは一回で、車椅子介助でした。新しい年も誠心誠意、積極的にさせていただきますと思っています。(坪井則子)

バザー作品作りに参加。目標数に達せず反省しています。楽しく作品作りが出来たことが良かったと思っています。(久保正子)

「まごころ」が始まって7カ月が過ぎ、事務所当番もさせていただき、皆さんとの触れ合う機会ができ、色々勉強させていただきました。これからも頑張ってください。(河合さずあ)

相手の立場に立って、自分の思いを出さずにお世話させていただくことの難しさを感じています。しかし、難しいからと後ずさりするのはなく、前向きに挑戦していきたいと思っております。私自身の生き方を見直し将来を考えたい機会に出合わせていただいていることに感謝しています。(篠田節子)